

今年の無病息災を祈つて

町内各地で小正月行事のどんどこや

1月11日から15日にかけて小学校や町内各地で、小正月の行事である「どんどこや」が行われ、大勢の人たちで賑わいました。

前日のうちに竹を調達し、地元の人たちが協力しながら、丁寧に組み上げたどんどこやしめ縄やもちなどを手に集まった人たちに見守られながら、組まれた竹と竹の間から火が入れられました。

「パン、パン」と竹が弾ける音を響かせながら、どんどこやは灰を巻き上げ、空高く真っ赤な炎を伸ばし、燃え上がりました。

しばらくして火の勢いが収まると、竹に日本酒を入れた「かつぽ酒」が並びました。訪れた人たちは、焼きあがったもちと燗のついたかつぽ酒を手に、今年1年間の無病息災を祈りました。



竹や網でもちを焼くみなさん(広崎)

母校に新しい校旗を

益城中央小で校旗・学校図書寄贈式

大阪府守口市在住の鷲尾勇二さんわしお ゆうじが益城中央小へ校旗と学校図書を寄贈し、同校で1月20日、寄贈式と感謝状贈呈式が行われました。

鷲尾さんは、昭和29年の木山小卒業生。全校児童を前に「町を離れても故郷のことを大切にしていきたい」「必ず、努力すれば夢はかなう」と自分の経験を交え語ってくれました。

また、「乱読でもかまわない。とにかく本をたくさん読んで、知恵を深めてほしい」と廣瀬誠一郎ひろせ せいいちろう校長に校旗と図書211冊を寄贈しました。

感謝状贈呈式では、廣瀬校長が「思いのこもった校旗と学校図書。大切に使っていきたい」と感謝を述べました。



新しい校旗を手渡す鷲尾さん(写真右)



絵馬を修復した出家さん(写真左)

古びた絵馬に色彩戻る

出家麻里さん(熊本市)が修復

平成24年12月、古閑の地藏堂に長年飾られ色あせた絵馬を修復しようと、同年3月まで益城中学校で美術教師をしていた出家麻里さんに、地元区長の福永幸也ふくなが ゆきやさんが修復を依頼。約1年間の修復期間を経た平成25年12月27日、修復完了後の受け渡し式が行われ、みごと色彩を取り戻した絵馬が本堂正面に飾られました。

修復にあたった出家さんは作業を振り返り、「実際に鎧や兜を見に行った。残り2点も今春完成予定で、今後も絵馬など地域の文化財を修復し守る活動をしていきたい」と話しました。

福永さんは「大事なものを修復してもらった。ありがたい」とお礼を述べました。